

守谷市水道事業 経営戦略 投資・財政計画に基づく目標値 進捗管理

投資計画

指標名	単位	算出方法	策定時 平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標 令和10年度	評価(令和5年度)
施設利用率	%	一日平均配水量/一日配水能力×100	75.06	83.07	83.67	87.73	87.50	87.33	78.66	≧83.00	目標値に近い値で推移しており、全国平均59.97%(令和4年度実績)よりも高く推移していることから、比較的効率的な施設利用が行えているといえる。
有収率	%	年間総有収水量/年間総配水量×100	96.44	97.15	96.63	96.84	97.31	97.11	96.46	≧96.71	全国平均89.76%(令和4年度実績)よりも高く推移しており、安定的な料金収入の確保に寄与している。
管路経年化率	%	法定耐用年数を超過した管路延長/管路延長×100	1.4	2.7	3.2	20.8	24.0	28.8	35.9	≦51.00	過年度における市の開発が集中して行われたため、法定耐用年数を経過した管路が急速に増加している。今後は計画的な老朽管の更新が必要となる。
管路更新率	%	当該年度に更新した管路延長/管路総延長×100	0.4	0.7	0.3	0.4	0.5	0.9	0.9	≧0.25	管路経年化率が増加している中において、職員数や予算等限られた資本の中で適切な管路更新を実施していく。

財政計画

指標名	単位	算出方法	策定時 平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標 令和10年度	評価(令和5年度)
経常収支比率	%	経常収益/経常費用×100	108.05	108.65	122.30	114.05	122.75	120.17	124.44	≧100	経常収支比率は100%以上を維持しており、令和5年度においても黒字経営となっている。今後も引き続き健全経営を継続していく。
累積欠損金比率	%	当年度未処理欠損金/(営業収益－受託工事収益)×100	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	累積欠損金は生じておらず、健全経営を維持しており、指標も0%のまま推移している。
流動比率	%	流動資産/流動負債×100	1,053.32	1,058.94	1,003.93	876.77	875.13	922.44	477.82	≧250	100%以上となっており、短期的な債務に対する支払能力についても問題はない。
企業債残高対給水収益比率	%	企業債現在高合計/給水収益×100	4.52	3.71	3.28	2.95	2.30	1.87	1.39	12.10	給水収益に占める企業債残高は、全国平均268.07%(令和4年度実績)よりも低く推移しており、令和5年度においても新たな起債も無く、健全経営を維持している。
料金回収率	%	供給単価/給水原価×100	101.77	99.73	114.89	110.02	116.20	114.58	116.67	101.00	料金回収率は100%を超えており、給水に係る費用が問題なく給水収益で回収できている。
給水原価	%	[経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費)－長期前受金戻入]/年間総有収水量	184.39	188.11	161.85	155.13	157.04	159.06	156.41	179.86	給水原価は、全国平均174.75%(令和4年度実績)よりも低く推移している。今後も費用の抑制に努め、適正な収支バランスを維持していく。
有形固定資産減価償却率	%	有形固定資産減価償却累計額/有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価×100	76.13	78.03	73.58	73.81	74.09	74.09	74.11	≦85.00	固定資産の構築から相当程度期間が経過しており、資産の老朽化が進んでいる。今後は、適切な施設の更新計画に基づき、施設の老朽化を改善していく。

※各種指標は「地方公営企業決算状況調査」を基に算出しています。
※公営企業会計における経常収支比率は100%以上で単年度収支が黒字であることを示しており、一般会計における同指標とは算出方法や判断基準が異なります。